

目標 1 城端線・氷見線の 1 日あたり乗車人員

・地域に利用される交通ネットワークの形成に向けた、路線の維持・発展を図る直接的な目標指標

現状値（平成 27 年度）	目標値（平成 33 年度）
10,840 人/日 城端線：6,387 人/日 氷見線：4,453 人/日	10,840 人/日 以上

平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
10,863 人/日 城端線：6,546 人/日 氷見線：4,317 人/日				

【目標値】今後、沿線 4 市の人口減少率が更に高まることが予測される中であっても、城端線・氷見線の乗車人員は、現状数 10,840 人/日以上を目指す。

目標 2 定期外利用者数割合

・定期利用者以外の新たな需要を取り込むための、定期外利用者数割合の増加を図る目標指標

現状値（平成 27 年度）	目標値（集計：平成 33 年度）
城端線：21.9% 氷見線：16.9%	城端線：26% 氷見線：21%

平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
城端線：22.1% 氷見線：15.4%				

【目標値】定期外利用者数割合を増加させる。

沿線人口が減少傾向にある中で、通勤・通学等の定期利用者数を維持していくことは容易ではない。定期利用者数が、人口減少と同様の割合で減少すると仮定し、その減少分を、観光利用や沿線でのイベント開催、公共交通の利用啓発等の取り組みのほか、鉄道沿線地域での民間開発等の要因も勘案し、定期外利用者を増加させることでカバーする。

目標 3 公共交通利用圏内の人口カバー率

・沿線住民が公共交通を利用しやすい環境をつくり、地域全体の公共交通網の形成を図る目標指標

現状値	目標値
71.7% （対象人口：平成 22 年国勢調査 公共交通圏域：平成 28 年 4 月時）	75% （対象人口：平成 27 年国勢調査 公共交通圏域：平成 33 年 4 月時）

平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
計画期間を終えた H34 年度に最終評価として成果検証し、報告予定				

【目標値】誰もが地域内を円滑に移動できる交通体系を目指し、鉄軌道駅・バス停から一定の利便性のある圏域内に含まれる沿線人口の割合を高める（公共交通利用圏域は、鉄道駅から半径 1km、軌道駅から半径 500m、バス停から半径 300m と設定する。）。

現在、鉄軌道駅付近での市街化区域変更、土地区画整理、宅地造成等が行われている。鉄軌道駅から離れたエリアにおいても、バス路線の再編など、住民ニーズに応じた交通サービスの提供に取組み、公共交通利用圏域内の居住人口カバー率を増やす。

目標4 城端線・氷見線とその他鉄道やバスとの乗継ぎ満足度

- ・異なる交通間の乗り継ぎを改善し、利用者の満足度を高める目標指標（5段階評価）

現状値（平成27年度）	目標値（平成33年度）
城端線：平均評価2.4 氷見線：平均評価2.2	一定の改善 城端線：平均評価2.7 氷見線：平均評価2.5

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
計画期間を終えたH34年度に最終評価として成果検証し、報告予定				

【目標値】沿線住民へのアンケート調査により、「城端線・氷見線と鉄道・バス等との乗継ぎ」に関する満足度の改善を図る（満足度は5段階評価）。平成27年度に協議会で実施した沿線住民へのアンケート調査では、「鉄道・バス等との乗継ぎ」に関する満足度が、全質問項目の平均評価点（城端線2.65、氷見線2.49）より低くなっている。城端線・氷見線とその他の鉄道、路線バス、高速バス等との乗り継ぎについて改善を図り、交通ネットワーク網の充実を図ることで、平均評価点を上回る満足度を目指す。

目標5 過去1年に利用した交通手段における城端線・氷見線利用割合

- ・公共交通を中心としたライフスタイルへの転換を図る目標指標

現状値（平成27年度）	目標値（平成33年度）
城端線：26.9% 氷見線：13.8%	約5%の向上 城端線：32% 氷見線：20%

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
計画期間を終えたH34年度に最終評価として成果検証し、報告予定				

【目標値】沿線住民へのアンケート調査により、過去1年間で利用した交通手段における「城端線・氷見線利用割合」を上昇させる。（※過去1年間に1度でも城端線・氷見線を利用した人の割合。）

- ・観光周遊ルート作成、沿線でのイベントとの連携等により、これまで利用機会がなかった沿線住民に、城端線・氷見線を利用してもらうきっかけを作る。
- ・新幹線利用者の新高岡駅への移動利便性を高め、ビジネスや観光目的など、日常生活以外の場における、城端線・氷見線の利用機会を高める。
- ・高齢者による自動車運転が増える中、運転免許返納者への公共交通利用割引の適用等のサービスにより公共交通利用を中心としたライフスタイルへの転換を図っていく。

城端・氷見線沿線地域公共交通網形成計画（H29～H33）事業取り組み状況表

【H30.7.9】

No	形成計画での取り組み	【連携計画での位置付け】	事業目的	取り組み内容	取り組み状況				
					H29	H30	H31	H32	H33
1	利用向上につながる車両の検討	【車両の内装のリニューアルの検討】	既存車両について、ラッピングや車内環境の快適性向上を図ることで、城端線・氷見線への愛着醸成やイメージアップと利用者数の維持向上を目指す。	■ラッピング列車を活用したイメージアップ ■車内環境の快適性向上の検討	ラッピング列車の運行	ラッピング列車の運行			
2	新幹線開業後の運行本数増便の検討	【車輛導入も考慮した運行本数増便の検討】	新幹線開業と同時に取り組んでいる城端線での増便試行運行（1日4往復8便の増便）の検証を通じ、新幹線開業後の観光目的利用者の動向や沿線住民も含めた利用状況等を勘案しながら、日常利用や新幹線の二次交通としての利便性向上を図り、利用者数の維持向上を目指す。	■増便試行の継続実施と効果検証 ■効果検証に基づく運行本数増便の検討	8月～ 城端線増便試行検証・次年度検討 9月 城端氷見線利用実態調査（乗降者数調査） 2月 「城端線・氷見線」に関する市民アンケート調査実施（満足度調査）	5月～ 城端線増便試行検証・次年度検討 9月 城端氷見線利用実態調査（乗降者数調査） 2月 「城端線・氷見線」に関する市民アンケート調査実施（満足度調査）			
3	交通ICカード利用拡大に向けた課題整理	【交通ICカードの導入に当たっての課題整理】	あいの風とやま鉄道区間で利用可能な交通ICカード「ICOCA」について、城端線新高岡駅でも利用可能となることから（H29.4～）、更なる利用拡大に向け、必要な課題の整理を行う。	■交通ICカードシステム利用可能エリア拡大検討調査	関係諸団体への情報収集 交通ICカード利用に関するアンケートの実施（増便アンケートと合わせて）	アンケート結果の検証、先進事例の研究 先進地視察の実施 ICカード導入に向けた検証			
4	城端・氷見線の直通化に向けた検討	【城端線・氷見線の直通化の課題整理】	城端線・氷見線の直通化に向けた検討を行うため、概算事業費の検証や具体的なダイヤシミュレーションなどを行う。	■課題整理の結果を踏まえた課題の解決調整、直通化に向けた検討調査（直通化概算整備費の検証、ダイヤシミュレーション、運行経費等）	直通化の需要予測調査（国補助 訪日外国人受入環境整備緊急対策事業を活用）	直通化調査（富山大学都市デザイン学部連携事業、費用対効果の検証等） 課題整理の結果を踏まえて、関係者との課題解決に向けた調整			
5	あいの風とやま鉄道、万葉線との接続性の向上 【地域交通】	【輸送サービス向上】	日常利用の利便性を強化するため、各路線の接続を考慮した運行ダイヤを検討することで相互に利用者数の維持向上を目指す。	■あいの風とやま鉄道及び万葉線との接続を考慮したダイヤの検討	JR西日本、あいの風とやま鉄道ダイヤ改正（H30.3.17）				
6	北陸新幹線との接続性の向上 【広域交通】	新規	広域交通としての利便性を強化するため、新幹線との乗り継ぎ利便性の高い運行ダイヤを検討し、利用者数の維持向上を目指す。	■新幹線との接続を考慮した城端線ダイヤの検討	JR西日本ダイヤ改正（H30.3.17）				
7	観光列車等とのタイアップ 【観光交通】	新規 【観光資源の活用】	沿線地域の魅力を発信するツールとして、観光列車の運行やタイアップ企画等について検討する。地域の魅力発信による観光の振興を図り、定期外利用者数の増加に繋げる。	■ベル・モニターニュー・エ・メール号での乗客サービスの提供 ■観光客おもてなし企画の検討 ■あいの風とやま鉄道観光列車（H30予定）とのタイアップ企画の検討 ■関連グッズの検討	「べるもんた」車内での、飲食サービスの提供、沿線4市の観光ガイドによる観光案内PR。 べるもんた車内での食事提供サービス（富山湾鮎ほか地酒セットなど、継続） 車内での地場産品の購入、使用による沿線PR	「べるもんた」車内での、飲食サービスの提供、沿線4市の観光ガイドによる観光案内PR。 べるもんた車内での食事提供サービス（富山湾鮎ほか地酒セットなど、継続） 車内での地場産品の購入、使用による沿線PR べるもんた関連ノベルティグッズ作成・配布（南砺市観光協会） べるもんた関連PRグッズ企画・製作			
8	利用者ニーズに合わせたバスの運行ルート、ダイヤの検討 【地域生活路線】	【バスとの乗換え円滑化】	通勤・通学利用者、高齢者をはじめとする利用者ニーズ、沿線まちづくりの動向等に合わせ、必要なバス路線や異なる交通間の乗り継ぎダイヤを検討することで、利便性の向上と利用者数の維持向上を図る。	■運行ルートやダイヤの検討 ■沿線のまちづくりや都市機能の集積と運動したバス路線網の検討	加越能バスダイヤ改正（H29.4.1、H29.10.1） 6月～城端井波間市営バス休日運行協議（南砺市） 10月～城端井波間市営バス休日運行開始（南砺市） 2月 南砺市営バスダイヤ検討（4月1日改正）	加越能バスダイヤ改正（H30.4.1） 城端井波間市営バス実証運行実施（南砺市） 2月 南砺市営バスダイヤ検討（4月1日改正）			
9	広域バスネットワークとの連携強化 【広域生活路線】	新規	地域生活路線と、計画区域をまたぐような移動を支える広域バスネットワークとの連携強化により、多様な広域移動路線の確保を図る。	■複数の自治体や県域をまたぐ広域生活路線バスネットワークとの連携強化	2月 南砺金沢線バスダイヤ検討（4月1日改正）	2月 南砺金沢線バスダイヤ検討（4月1日改正）			
10	観光路線バスの運行 【観光路線】	新規	既存観光路線バスの利用促進や、新たな観光路線の検討を行うことで、観光やビジネスに資する広域交流の拡大を図る。	■既存観光路線バスの利用促進 ■主要駅発着の観光路線の検討	世界遺産バス、わくライナー、まわるんの運行	世界遺産バス、わくライナーの運行 世界遺産バスルート見直し、停留所新設、ダイヤ改正（加越能バスH30.4.1～） 井波・庄川クルーズシャトル土日祝運行（加越能バス）			

No	形成計画での取り組み	【連携計画での位置付け】	事業目的	取り組み内容	取り組み状況				
					H29	H30	H31	H32	H33
11	終着駅の魅力向上	新規	氷見駅、城端駅の終着駅としての拠点性及び目的地としての魅力の向上により、利用者数の維持向上と、終着駅から沿線地域全体への観光交流の拡大を図る。	■氷見駅、城端駅について、終着駅としての拠点性向上、目的地としての魅力向上等の方策検討		城端駅舎内部改修による観光案内機能強化（南砺市）			
12	駅施設整備及び駅周辺整備	【駅施設整備及び駅周辺整備】	駅施設や周辺の関連施設を整備することで、利用者の利便性向上と公共交通利用への転換を図る。	■駅施設、付属施設、駅前広場、アクセス経路の整備	砺波駅：砺波駅前広場イメージアップ事業（砺波市） ・歩道部の舗装及び縁石整備 ・車道部の側溝整備 ・無数水消融雪設備の整備 城端駅情報・交通拠点化周辺整備事業（南砺市） 高岡駅：ホーム案内看板の更新	砺波駅：砺波駅前広場イメージアップ事業（砺波市） ・ロータリー部舗装工事 ・年内完成予定 城端駅情報・交通拠点化周辺整備事業（南砺市）			
13	観光周遊ルートの作成	新規	城端線・氷見線を活用した観光モデルプランを作成することで、定期外利用者数の増加と観光交流の拡大を図る。今後、増加が期待される訪日外国人旅行者など、海外の需要を取り込むため、多言語対応による交通・観光案内板の整備、パンフレット作成等、海外からの団体・個人旅行者の利用増加に繋げる。	■公共交通利用を前提とした観光モデルプランの作成 ■訪日外国人旅行者向けの情報提供、情報発信の充実	旅行商品の企画（砺波市観光協会等 H28年度より）。 チューリップフェアをはじめとした、「花のまち となみ」の認知度向上のため、首都圏をはじめ中京、関西でのPRキャンペーンの充実を図る。（砺波市：H27年度より） 北陸新幹線新高岡駅商品開発PT旅行商品造成	旅行商品の企画（砺波市観光協会等 H28年度より）。 チューリップフェアをはじめとした、「花のまち となみ」の認知度向上のため、首都圏をはじめ中京、関西でのPRキャンペーンの充実を図る。（砺波市：H27年度より） 北陸新幹線新高岡駅商品開発PT旅行商品造成 城端線を使った、日本遺産認定「木彫刻のまち井波」旅行商品の企画発売（南砺市観光協会）			
14	沿線でのイベントとの連携	【沿線各自治体とのイベントの連携】 【万葉線との連携】	沿線の地域資源や観光地、イベント等と連携し、公共交通を介した交流拡大、利用者数の維持向上、乗車機会の創出等を図る。	■城端線・氷見線を利用したイベントの開催促進、支援 ■アニメ等地元資源を活用したイベントの共催、開催支援 ■万葉線との連携イベントの共催	城端線に乗って♪魅力たっぷり富山旅に出かけよう！（砺波市） 6月 城端線を利用した南砺イチゴ狩りツアー（万葉線との連携イベント） 7月 ミステリーナイトウォーク「きもだめし」（氷見線応援委員会） 8月 身近な列車に触れよう！学ぼう！～地域を支える公共交通の旅～（氷見線応援委員会） 10月 なんと彩葉まつりと連携した城端線活性化事業（南砺市観光協会） 11月 氷見線を利用した氷見の湯と味覚堪能ツアー（万葉線との連携イベント） 11月 城端線・氷見線を利用したイベント（JR戸出駅利用促進協議会との連携事業） 11月 氷見線・城端線で行くおいしい地酒めぐりツアー（氷見線応援委員会） 12月 べるもんた歓迎キャンペーン（氷見市花と緑のまちづくり協会との連携事業）	城端線や北陸新幹線等公共交通を利用した県内観光ツアーを企画（砺波市） 10月 なんと彩葉まつりと連携した城端線活性化事業（南砺市観光協会） 10月 ひみ食祭まつりと連携した氷見線活性化事業（氷見市） 1月 初詣、初参と連携した城端線活性化事業（南砺市観光協会） 城端線・氷見線を利用したイベント（JR戸出駅利用促進協議会） べるもんた歓迎キャンペーン（氷見市海浜植物園） 氷見線でGo！ミステリーナイトツアー（氷見線応援委員会） 氷見線でGo！大人の遠足～地酒巡り～（氷見線応援委員会）			
15	観光用フリーWi-Fiスポット設置	新規	観光客等が利用できるWi-Fiスポットの設置により案内機能の強化や利便性の向上を図る。訪日外国人旅行者にとっても、安心して沿線を訪れることができるよう、受入環境の整備に取り組む。	■Wi-Fi設備の設置	氷見駅、高岡駅、新高岡駅、油田駅、砺波駅で運用中 城端駅、福光駅、福野駅H29.2から運用開始	氷見駅、高岡駅、新高岡駅、油田駅、砺波駅、福野駅、福光駅、城端駅で運用中			
16	モビリティマネジメントのPR	新規	自動車から公共交通利用への転換を図るモビリティマネジメント手法を取り入れた情報提供やアンケートの実施等により、沿線住民の公共交通利用への意識変容を促す。	■自動車通勤者に対する情報提供やアンケートの実施・公共交通のお試し利用の実施 ■自動車運転免許返納者への公共交通利用割引の適用等サービスの導入・拡充検討	2月 「城端線・氷見線」に関する市民アンケート調査実施	「城端線・氷見線」に関する市民アンケート調査実施 沿線企業へのモビリティ・マネジメント手法を活用した企業アンケートの実施			
17	公共交通案内の作成、PR（紙ベース、ホームページ等）	【乗換案内の充実】	沿線地域の公共交通網に関して、異なる交通手段を含めた広域的な交通マップの作成等積極的な情報提供を行い、公共交通利用への転換を図る。また、訪日外国人旅行者向けの多言語対応による交通・観光案内板の整備、パンフレット作成等に取組み、受入環境の整備を図る。	■バスと連携した時刻表の作成 ■沿線公共交通マップの作成 ■駅施設のバリアフリー対応に関する情報提供 ■バス時刻表、乗換え案内のインターネット検索システムへの反映 ■多言語対応の交通・観光案内版、パンフレット作成	スタンブラリー企画と合わせた観光マップ作成（4市）	インターネットのマップ検索に市営バスを対応させることで、城端線との乗り継ぎを簡単に分かりやすく情報提供 総合時刻表の作成、HPへの掲載 バス情報のオープンデータ化による大手検索サイトを活用した情報発信（富山県）			
18	公共交通利用者へのインセンティブ	新規 【城端線・氷見線の利用補助制度】	公共交通利用に転換することに意義を見い出せるようなインセンティブ施策の導入を検討し、利用者数の維持向上を図る。	■異なる交通機関利用時に併用できる共通乗車券、定期券の導入検討 ■児童、生徒らの体験学習時の利用支援 ■公共交通利用促進運動等実施事業所への補助方策検討 ■児童、生徒向けのホリデーバス、1日乗車券等	5月 「氷見線でGo！氷見の商店街でおトクで楽しいお買い物！」事業（氷見線応援委員会） 7月～12月 氷見夜のまちなかグル巡り半額キャンペーン（氷見線応援委員会） 1月 「氷見線でGo！高岡なべ祭り」事業（氷見線応援委員会） 通年 城端線で体験学習事業（南砺市） 通年 城端線で行かけよう事業（南砺市） 通年 城端線全線開通120周年記念事業（レンタサイクル助成、氷見市街地周遊バス乗継助成）	5月 「氷見線でGo！百縁笑店街でお買い物！」事業（氷見線応援委員会） 5月 「氷見線に乗って伏木曳山祭を見に行こう！」事業（氷見線応援委員会） 通年 城端線で体験学習事業（南砺市） 通年 城端線で行かけよう事業（南砺市） 氷見線利用者への市街地周遊バス乗り継ぎ助成（氷見市） 「氷見夜のまちなかグル巡り」事業（氷見線応援委員会） 「氷見線でGo！日本海高岡なべ祭り」事業（氷見線応援委員会）			

No	形成計画での取り組み	【連携計画での位置付け】	事業目的	取り組み内容	取り組み状況				
					H29	H30	H31	H32	H33
19	駅施設の有効活用	【駅施設整備及び駅周辺整備】	駅や駅周辺施設の整備、利活用について、まちづくりの方向性を踏まえながら検討し、地域の拠点機能としての役割強化を図るとともに、城端線・氷見線への愛着醸成を図る。	■まちづくり拠点としての駅舎、駅周辺施設の整備検討	砺波駅コミュニティプラザ内の観光案内所において、各種観光案内のほか物産販売を実施。月1回の「にぎわい市」(H27年度～)の開催などにより、砺波駅を中心としたまちづくりの取り組みを促進。	観光案内機能強化のため、城端駅舎の内部を改修(南砺市) 城端駅舎に南砺市観光協会が入居予定(南砺市観光協会) 砺波駅コミュニティプラザ内の観光案内所において、各種観光案内のほか物産販売を実施。月1回の「にぎわい市」(H27年度～)の開催などにより、砺波駅を中心としたまちづくりの取り組みを促進。			
20	城端線、氷見線グッズ作成	新規 【観光資源の活用】	城端線・氷見線に関するオリジナルグッズを作成、販売することで、話題づくり、愛着の醸成を図るとともに、販売収益による経営安定への寄与を目指す。	■オリジナルグッズの作成等による親しみやすさの向上 ■グッズ販売による収益改善	2月 城端線ノベルティ作成(南砺市観光協会)	べるもんた関連ノベルティグッズ作成・配布(南砺市観光協会) べるもんた関連PRグッズ企画・製作			
21	利用者マナーの向上	新規	朝夕の通勤・通学時間帯等における利用者マナーの向上を図り、利用者が安心して乗車できる車内環境を創出する。	■利用者マナー向上の車内アナウンス、広告等 ■学校を通じた利用者マナー向上啓発	高岡・城端鉄道少年団の乗車マナー啓発活動 民間の団体がマナー向上運動を実施(南砺の城端線を活かす会)	高岡・城端鉄道少年団の乗車マナー啓発活動 民間の団体がマナー向上運動を実施(南砺の城端線を活かす会)			
22	駅への愛着醸成	【地元ボランティアによる環境美化】	地元ボランティアによる美化活動など、駅を中心とした多様な活動を促進することで、駅や路線への愛着を醸成する。	■地元ボランティアによる環境美化活動 ■駅や鉄道に親しむイベントの開催等、駅周辺に集まる機会の創出	高岡・城端鉄道少年団の清掃活動等 城端線・氷見線沿線各駅において、春、秋の年2回、西日本鉄道OB会高岡支部と連携して花植え、美化活動を実施(砺波市では、鉄道OB会とのクリーンアップ事業を、砺波市内各駅の利用者並びに地域の自治振興会等とも連携して実施) 城端線開通120年記念事業(連続講座全6回: 7月9日(日)～11月12日(日)、記念シンポジウム: 12月10日(日)、沿線住民団体との連携) 城端線全線開通120周年記念事業(スタンプラリーの実施) 氷見・雨晴駅及びハットリくん列車清掃事業(10月13日(金): 氷見線応援委員会)	高岡・城端鉄道少年団の清掃活動等 城端線・氷見線沿線各駅において、春、秋の年2回、西日本鉄道OB会高岡支部と連携して花植え、美化活動を実施(砺波市では、鉄道OB会とのクリーンアップ事業を、砺波市内各駅の利用者並びに地域の自治振興会等とも連携して実施) 氷見・雨晴駅及びハットリくん列車清掃事業			
23	花のある景観づくり	新規	城端線・氷見線の各駅や沿線において、花のある景観づくりを行い、季節ごとの魅力創出を図るとともに路線への愛着を醸成する。	■城端・氷見線の各駅への花植の実施 ■車窓からの眺望が楽しめる景観づくり	城端線・氷見線沿線各駅において、春、秋の年2回、西日本鉄道OB会高岡支部と連携して花植え、美化活動を実施(砺波市では、鉄道OB会とのクリーンアップ事業を、砺波市内各駅の利用者並びに地域の自治振興会等とも連携して実施) 歓迎花文字による車窓からの景観づくり事業(高岡銅器団地協同組合) 「チューリップが咲き誇る春の新高岡駅」事業(戸出町チューリップ切花生産部会)	城端線・氷見線沿線各駅において、春、秋の年2回、西日本鉄道OB会高岡支部と連携して花植え、美化活動を実施(砺波市では、鉄道OB会とのクリーンアップ事業を、砺波市内各駅の利用者並びに地域の自治振興会等とも連携して実施) 歓迎花文字による車窓からの景観づくり事業(高岡銅器団地協同組合) 「チューリップが咲き誇る春の新高岡駅」事業(戸出町チューリップ切花生産部会)			